



R8 上半期学校評価アンケート結果号
令和8年10月2日（金）
京都市立待鳳小学校 校長 牧 紀彦

学校教育目標「考えを深め合い、夢に向かって挑戦する待鳳の子」

● よくあてはまる ● 大体あてはまる ● あまりあてはまらない ● あてはまらない

← 肯定的 | 否定的 →

子どもは日常のいろんなことに「なぜ？」
「どうして？」などの疑問を感じるが多い。



子どもは知りたいことについて、
よく自分で調べたり考えたりしている。



子どもは自分の考えをおうちでよく話している。



子どもが自分の考えを話すときは、
その理由まで話すようにしている。



子どもは家族や人の話をよく聞いている。



子どもは相手を大切にした言葉づかいをしている。



子どもは自分と違う意見や考えも大切にしている。



子どもは自分の考えと比べながら
人の意見や考えを聞いている。



保護者

「学校教育目標（育成をめざす資質・能力）」

- ・自分事として考える力
- ・人と関わり合って、考えを深める力
- ・失敗を恐れず挑戦する力
- ・「自分たちで」「自分たちが」考えて行動する力
- ・体験・経験を知識と結びつけて考える力
- ・自己をふり返り、次に生かす力

上半期 保護者アンケートの結果

肯定的な意見が目立つ項目としては、「子どもは日常のいろんなことに「なぜ？」「どうして？」などの疑問を感じるが多い」「子どもは自分の考えをおうちでよく話している」「子どもは自分自身に満足している」「子どもは自分には長所があると感じていると思う」「子どもは人の役に立つことが好きだ」などが挙げられると思います。実は、この項目は昨年度の「上半期 保護者アンケート」の項目と同じで、本校の子どもたちにとって、日常的に疑問をもって生活をしたり、自己肯定感や自己有用感に関わったりする内容について、安定して肯定的な様子が見られると感じています。

文部科学省が発表している過去の「全国学力・学習状況調査の結果（概要）」を見てみると、児童質問項目の中の「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」と「自分にはよいところがあると思う」の二つの質問に高い相関関係が見られることがわかります。つまり、子どもたちが「なぜ？」「どうして？」と疑問をもち、探究的に調べたり考えたりできるような環境があることは、子どもの自己肯定感を高めることにもつながると言えます。また「探究的な学び」を支えるには、①課題が子どものものになっていること、②人との対話をする事、③自身の学びをふり返ること、などが重要であると考えられます。ここで注目したいことは、上半期のアンケート項目の中で「子どもは自分の考えをおうちでよく話している」「子どもは家族や人の話をよく聞いている」の項目がどちらも肯定的な意見が多いということです。おそらく「なぜ？」「どうして？」と感じた子どもたちが、ご家庭の中での対

学校評価のアンケートへのご協力ありがとうございました。お忙しい中、たくさんの保護者の方からご回答いただきました。いただいたアンケートの回答結果は、今後の学校づくりの参考にさせていただきます。12月ごろに、下半期の学校評価アンケートを実施する予定です。引き続きご協力いただきますようよろしくお願いします。

● よくあてはまる ● 大体あてはまる ● あまりあてはまらない ● あてはまらない

← 肯定的 | 否定的 →

子どもは「なしとげたい」とか「こんな人になりたい」
などの夢や目標をもっている。



子どもはめあてや目標を実現するために、
自分で計画を立てている。



子どもは失敗を恐れずいろんなことに
挑戦しようとしている。



子どもは一度うまくいかなくてもすぐにあきらめず、
また挑戦しようとしている。



子どもは自分のしたことを振り返り、
次に生かそうとしている。



子どもは自分自身に満足している。



子どもは自分には長所があると感じていると思う。



子どもは人の役に立つことが好きだ。



話を通して自分なりの考えを見つけたり、ふり返ったりすることを日常的に行っているのではないかと思います。周りの大人が子どもの疑問について一緒に考え、意見をかわす環境は「探究的な学び」の素地を培い、自己肯定感を高めているのではないのでしょうか。本校の多くの児童が「自分に長所がある」「人の役に立ちたい」と考えることができるのは、そうした家庭環境の支えが大きいのではないかと思います。

次に、否定的な意見の多かった項目について見ていきたいと思います。

「子どもはめあてや目標を実現するために、自分で計画を立てている」（肯定的 36.9% 否定的 63.1%）

「子どもは「なしとげたい」とか「こんな人になりたい」などの夢や目標をもっている。」（肯定的 63.6% 否定的 36.5%）

「子どもは失敗を恐れずいろんなことに挑戦しようとしている。」（肯定的 67.2% 否定的 32.7%）

一番に多かったのは、「計画性」についてです。PISA（OECD 生徒の学習到達度調査）においても日本の子どもたちの特徴として、学力は世界トップレベルでありながら、学習の計画に対して自信をもっている子が少ないことがうかがえます。目標の到達に向けて計画する力は大切ですが、一朝一夕では身につきません。子どもが立てた計画を大人が確認すると、甘さが目につきもどかしく思うことも多くあります。しかし、こちらが指示を出し過ぎてしまうと、なかなか計画性が育ちません。いつもというわけにはいきませんが、私たち大人は、忍耐強く子どもの計画に寄り添いアドバイスをしていくことが大切なのかもしれません。

「夢や目標をもつ」「失敗を恐れず挑戦」についても子どもたちが成長する上で大切な視点です。自尊感情を高め、挑戦する子を育てる上で「褒めること」が大切だとよく言われます。1990 年ごろスタンフォード大学で同じテストをした子どもたちに対して「能力や才能」を褒めたグループと「努力や過程」を認めて褒めたグループに分け、その後の成長の様子を見る研究が行われました。その後 2 つのグループの子どもに新しい問題を解くか、同じ問題を解くかを選ばせると明確な差が生まれたそうです。（裏面へ）

